

みえ国際協力大使 鈴木 智久さんからの活動報告

赴任国:ナミビア 職種:PCインストラクター 2011年1月派遣

～パソコン・ソロバン・国際交流～

ナミビア共和国の紹介

ナミビア共和国は、南アフリカ共和国の北西隣に位置し、南大西洋沿岸では屈指の良港をもつ、面積約 82 万km²（日本の約 2.2 倍）、人口約 230 万人（日本の人口の約 1/55、ちなみに三重県の人口は約 185 万人）の国です。



独立は 1990 年、独立前は南西アフリカと 写真 1 リゾート地のひとつ、スワコップムンド 呼ばれていました。

現在は世界的に見ても経済・政治状況ともに安定していると思われます。

観光という面では日本人にとってはあまり馴染がないかもしれませんが、世界最大級の隕石、数千年も自生している植物、世界第二位を誇る規模の渓谷、赤色の砂漠等世界でも稀な名所が沢山あります。・・・赴任して 11 か月目、未だ主な名所に行ったことがないのでこれといった写真をお見せできないのが残念ですが。

南大西洋沿岸にはハリウッドの名優達が所有するプライベートビーチや別荘が立ち並ぶ地区もあります。知る人ぞ知るリゾート地でもあるのです。

日本とナミビアの繋がりそれほど有名ではありませんが、身近なところではナミビア産のエビや魚などが日本に輸出されております。南北に長く、海に面しているという点、海産物が豊富であるという点で、三重県に似ているのではないでしょか。地理的、産物的に似た特色をもつナミビアと三重県が将来、何らかの友好的なつながりが持てればいいなあ、と思っております。

公用語は英語で学校の授業も英語で行われますが、普段の生活では自部族の言葉・アフリカーンス等が使い分けられています。ナミビア人は最低 4 言語（英語・自部族語・他部族語最低 2 言語）を使いこなして日常生活を送っております。かれらの言語能力の高さには驚かされるばかりです。

赴任地と赴任先の学校の紹介



写真 2 幹線道路からウサコスを臨む

そんなリゾート地とは無縁
(!)な赴任地であるエロン
ゴ州ウサコス市。気候区分と
しては砂漠気候とステップ気
候の中間地点といったところ
です。兎角、日中は暑いので
す。夏季の朝晩は「涼しい」
のですが、この時期の日中は

本当に暑いのです。湿気が低
いのもありますが、例えば水

をたっぷり含ませたバスタオルを日の当たる場所に干すと約30分でカラカラに乾き
ます。こちらに来てからは、洗濯物が乾かなくて困る、なんて経験はしたことがあり
ません。反対に冬季は朝から晩までコートが手放せないくらい寒いです。氷点下にな
ることは稀ですが最低気温は平均1℃、最高気温も平均20℃くらいです。この時期は
さすがに洗濯物が夏ほどには乾きません。3時間くらいは干す必要があります。何れ
にせよ、日本では考えられない早さです。

ナミビア人でさえ「あそこは暑いから引越先としてはちょっと・・・」と言わし
めるほど暑いウサコス。

その地にあるのが赴任先の学校である「Usakos junior secondary school (ウサコス
中学校)」です。

ナミビアの教育制度は7-3-2制度なので

小学校はGrade1 (1年生:7歳)からGrade7 (7年生:13歳)

中学校はGrade8 (8年生:14歳)からGrade10 (10年生:16歳)

高校はGrade11 (11年生:17歳)からGrade12 (12年生:18歳)

となります。

日本と大きく違う点は「小学1年生から進級テストに合格しないと次の学年に進めな

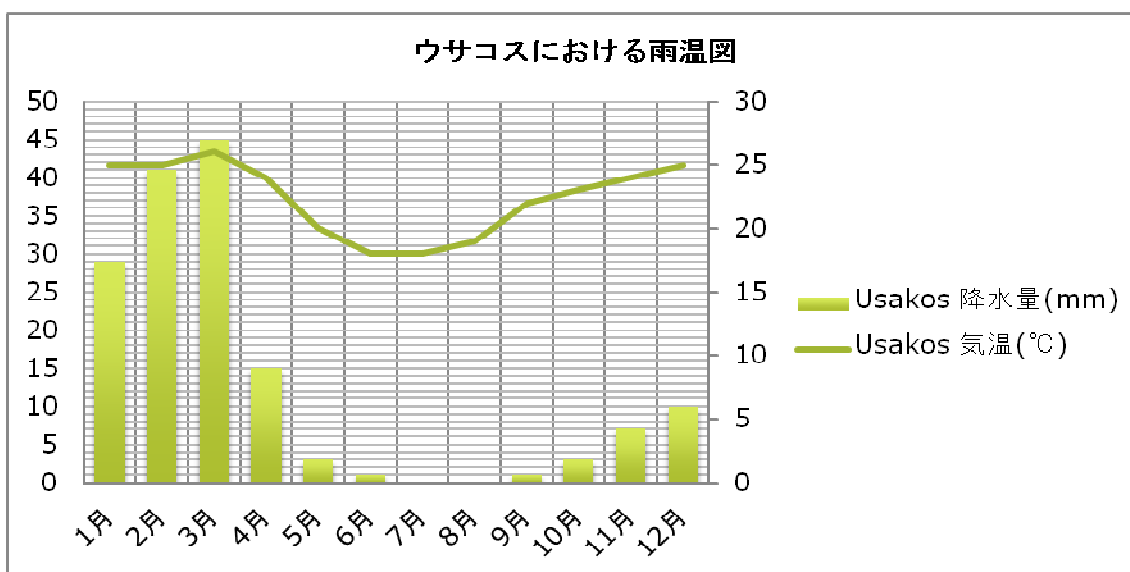
い」ことです。残念ながら順調に上記年齢時に進級できる生徒は少ないのが現状です。ここも日本と大きく違います。

当校生徒数は約 350 名、そのうち約 7 割が寄宿舍で共同生活をしております。これもナミビア国内では一般的なことで早い生徒は Grade1 の時点で寄宿舍生活を送っています。

活動内容

私は PC インストラクターとして派遣されていますが、数学教師としても教壇に立っています。学校のパソコン科 (Keyboard and Word Processing) の授業で、同僚教師とともにチームティーチングをしています。同僚教師は、タイピングの分野においては指導者としてレベルが高いので、私は専ら表計算ソフトを使ったデータ処理を担当しています。

生徒の学習意欲は高く、今まで表計算ソフトを使ったことのない生徒も、今では複合グラフ (雨温図 : グラフ参照) を作成できるようにまでなりました。



数学は、学生時代あまり得意ではなかったのですが、日本人＝理数科目も並はずれて得意、という学校管理者層の総意 (!) のもと、担当しています。

この国では、独立前にあったアパルトヘイト (史上稀にみる悪法 : 有色人種は理数科目を勉強してはならないという制限もあった) の影響が色濃く残り、理数科目を不得意としている人が多いのです。

この状況を少しでも改善させるため、毎週土曜日に「土曜塾」を行い、生徒の学力向上を目指しているほか、社団法人全国珠算教育連盟三重県支部の御協力¹をいただき、土曜塾内で希望する生徒にソロバンを教えております。始めたばかりなので目に見える成果はまだ上がっておりませんが根気よく続けていきます。



写真 3 土曜塾でソロバンを学ぶ生徒

また、効率の良い学校運営のための助言を管理職層に提案しています。現在行っているプロジェクトは「教科書管理システム」の構築です。ナミビアでは学校側が教科書を生徒に貸出し、学期が終わるごとに生徒は教科書を返すシステムなのですが、回収率が非常に悪く「誰がどの教科書を借りたのか」をはっきり管理できていない状況でした。この状況を改めるため、教科書全てに管理番号をつけ、新たに設けた生徒番号に紐づけしデータベースを構築するというものです。まだ完成はしていませんが、学校の資産をしっかりと管理する上で効果的な方法だと思っています。

日本文化の紹介も協力隊隊員として、みえ国際協力大使として活動の一つです。「合唱でつなぐ日本とナミビア」と題し、私が卒業した中学校とウサコス中学校それぞれの生徒の合唱の様子をビデオ撮影し、インターネットを通じて交換、お互いに上映するという企画を行っております。

合唱の様子だけでなく、伝統舞踊、日常生活等も合わせてビデオ交換することにより日本とナミビアの国際的文化交流・異文化理解の懸け橋となることを期待しております。

先日、ウサコス中学校の生徒の合唱の様子と、伝統舞踊の様子をそれぞれビデオに収めインターネットを通じ日本に送ったところです。こちらの同僚教員・生徒は日本の

生徒の合唱の様子ビデオが届くのを楽しみにしています。

この交流が長く続くことを願っております。ⁱⁱ

残りの任期

派遣されて早 11 か月目です。残すところあと 14 ヶ月です。幸いなことに大きく体調を崩すこともなく、健康面では心配はありません。日々、生徒の学力向上と日本（特に三重県）と赴任先をどうつなげていけるかを考えて活動しております。ボランティアという立場ではありますがじっくり焦らず、さらに現地に溶け込みながら活動を続けていく所存です。

今後とも、暖かい目で見守っていただければ幸いです。

ⁱ JICA の「世界の笑顔のために」プログラムを通し、算盤・教材をご提供いただきました。

ⁱⁱ ご興味をもたれた三重県内中学校・高校のご担当者様は私までご連絡いただきたく存じます。